

愛西市教育委員会では、愛西市立小中学校の適正な規模等の検討並びに老朽化対策を進めています。今回 (Vol.13) は、「他市における適正化事業に関する現状」と「現在取り組んでいる老朽化対策」について、お知らせします。



## 他市における適正化事業に関する現状

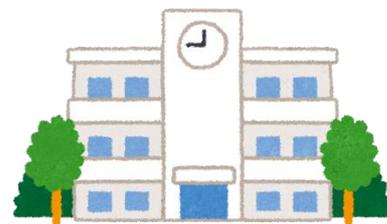
現在、全国的に適正化事業が取り組まれており、近隣でも、弥富市、稲沢市、海津市などで進められています。今回は、3市の事例を紹介します。

### 弥富市

令和7年4月に、十四山中学校が弥富中学校へ編入されます。

弥富市の児童・生徒数は、令和4年度で約3,600人、令和11年度には約3,000人になると推測されており、生徒数の減少から、令和8年度には、十四山中学校は全学年1クラスになると見込まれています。

将来を担う子どもたちにとって、多様な考えに触れ、切磋琢磨する中で学ぶことができるよりよい教育環境が必要との考えから、適正化事業の検討、整備が行われ、令和7年4月の再編に向け、準備が進められています。



### 稲沢市

児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化等を受け、学校再編・統合を含む学校施設の整備に関する基本計画の策定が進められています。

稲沢市の児童・生徒数は、令和5年度で約10,500人、令和11年度には約9,200人になると推測されており、令和5年度は23校中8校が、令和11年度には11校の学校が、全ての学年で1クラスになると見込まれることから、教育の充実を図るため、適正化事業が進められています。

基本計画案について、令和6年1月10日から2月9日までの間、パブリックコメントが実施されました。

### 海津市

5つの小学校を統合し、令和6年4月に海津小学校が開校しました。

海津市海津町の児童・生徒数は、令和4年度で約490人、令和9年度には約350人になると推測されております。子どもたちの将来の学びへの影響を考慮し、1つの小学校に統合を進め、令和6年4月に海津小学校が開校しました。

統合後、海津小学校では、1学年2クラス以上のクラス数が確保できており、多様な考えに触れられる教育環境が整えられました。



(写真) 海津市立海津小学校

## 現在取り組んでいる老朽化対策

愛西市立の学校施設については、これまで建物の耐震化やICT環境の整備を進めてまいりましたが、建築年が昭和40年代から昭和50年代に集中していることから、今後は老朽化対策を進めなければならない状況です。雨漏りや外壁の剥離等への対策等、子どもたちが良い教育環境で学ぶことができるよう、統廃合も含め、計画的な老朽化対策を進めます。その皮切りとして、現在、以下の取組を進めています。

### 佐屋小学校施設の調査

第Ⅰ期基本計画の《施策1》「佐屋小学校の老朽化対策」に関する取組です。

#### ○状況

佐屋小学校は、校舎の老朽化が著しく、特に南校舎の一部は、建築から約60年経過しており、速やかに老朽化対策を実施する必要があります。これまで、壁や天井から度重なる雨漏りや漏水、校舎一階への浸水被害が発生しています。

#### ○対策

校舎や体育館を支える鉄骨の腐食やコンクリート、外壁の劣化、雨漏りや設備の破損等の状況はどうか、時代に即した教育環境は確保されているか、など、様々な視点から総合的に判断し、対策を講じてまいります。



### 永和中学校体育館の調査

第Ⅰ期基本計画の《施策5》「学校施設の老朽化対策等について」に関する取組です。

#### ○状況

佐屋小学校以外の学校施設においても、老朽化が著しい学校施設は存在しています。特に永和中学校の体育館については、雨漏りや壁の剥がれが顕著で、体育館の天井部の壁の剥落が発生しています。(右写真のとおり)

#### ○対策

応急処置を行い、現在体育館は使用できる状態になっていますが、根本的な老朽化対策が必要です。

そのため、令和6年度、施設の健全度を測る調査を行い、その状況にあわせて老朽化対策を講じてまいります。



(写真：永和中学校体育館)

※永和中学校体育館以外の学校施設についても、状況に応じて、順次、老朽化対策を行う予定です。

計画に定められた適正規模等並びに老朽化対策の取組については、必要に応じて、保護者や地域住民の代表者を含む各施策の関係者で構成する準備委員会において、検討・協議を行い、進めてまいります。

会議での検討・協議内容については、ホームページやチラシで市民の皆さんにお知らせします。

お問い合わせ先 愛西市教育委員会事務局教育部学校教育課  
0567-55-7136 / gakko-kyoiku@city.aisai.lg.jp



市ホームページ

(これまでのチラシを

ご覧いただけます。)